

平成 30 年度 第 1 回 大阪府立春日丘高等学校 学校運営協議会（定時制の部）

平成 30 年 7 月 18 日（水）19：00～21：00

場所：ウイステリアホール

議 事 録

協議会委員 中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）、中鹿 彰 委員（追手門学院大学教授）  
久保 博 委員（茨木市立西中学校長）、片岡 誠 委員（本校後援会長）  
新居 真理 委員（保護者・本校振興会副会長）、長田 佳久 委員（本校卒業生）  
事務局 平岡 香子（准校長）、島田 一（教頭）、竹内 秀行（首席）、浅原 幸三（主査）  
江菅純一、中村 充希、小谷 貴昌（以上、教員）

第 1 部 授業見学

第 2 部 1. 准校長挨拶

2. 自己紹介

3. 会長選出（准校長より）

中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）に会長を依頼した。

4. 本校の現状について

- ① 本年度学校経営計画（准校長）
- ② 学校の現状について（教頭）
- ③ 次年度教科書選定について（准校長）
- ④ いじめ基本方針（首席）

第 3 部 協議

次回は 11 月に開催予定

<提言・質問等>

- ・授業を見学したが、アクティブラーニングはどのように実施しているのか。また、定時制にはいわゆるアクティブラーニングが苦手な生徒も在籍していると思うが、そのアプローチはどうしているのか。  
⇒ アクティブラーニングを話し合いや発表だけにとらえると確かに苦手とする生徒は一定数いるが、自分で考え、納得し、まとめる力をつけるような真のアクティブラーニングの実践について研究し、

努力しているところである。

- ・(学校経営計画で)中退防止のことを書いているが、仕事が決まった生徒など退学しなければいけない生徒がいると思うが、どのように対応しているのか。  
⇒ 仕事が見つかり、進路変更して退学する生徒も確かに存在する。進路変更後でも高卒の資格が必要な生徒に関しては、編入などで受け入れている。一般に退学した生徒は支援が途切れがちであり、地域福祉との継続性が課題である。
- ・生徒数の減少が考えられるが、どのような対応を考えているのか。  
全日制などと行事を一緒にするのはどうか。  
⇒ 現在、校内で実施形態について検討している。
- ・過去よりは就職だけでなく、進学も増えてきたが進学指導はどうなっているのか。  
⇒ 卒業年次では、就職・進学に分かれて進路HRを行っている。また、1年次より受験方法や奨学金も含めてきめ細かく個別に対応をしている。
- ・学校協議会の全日制部会で参考になる事例を定時制部会でも取り入れたりしたらどうか。(意見)
- ・いじめ基本方針について、被害者側の支援も必要だが、加害者側の支援についても考えてほしい。  
⇒ いじめに関しては表面化せず、(SNSなど)見えにくくなっている部分もあるので、アンテナを張るようにしている。
- ・いじめ対策委員会にSSWが入ってないが。  
⇒ 来校日の関係もあり、SSWは連携という形にしている。
- ・4月から給食時間を含め、校時の変更があったが、どうして行われたのか。  
⇒ 主に、生徒指導の面での教員の巡回の関係から給食の時間を先にした。近隣からの苦情や無断外出もなくなった。心配された遅刻の問題も生じていない。
- ・人権や障がい者問題等どのような研修を行っているのか。  
⇒ 人権研修は教員対象・生徒対象それぞれ行っている。(参考:3回の教職員研修、1回の全校生徒向けの研修、1回ずつの各年次生徒向け研修)
- ・茨木市内の中学校もマイノリティ、人権、生徒指導など様々な課題があり、地域、保護者、関係機関SC、SSW、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)と連携しながら教育活動を行っている。地震の時も地域の支えにより子どもの不安を和らげることができた。地震の翌日の避難訓練はどのように行ったのか  
⇒ 地震の翌日から授業を再開した。具体的には、安否確認・友達や教員との安心できる居場所づくり、避難経路の周知徹底を行ってから授業を開始した。